

第8回 FD 研修会報告書

第1回金沢学院大学・金沢学院短期大学
FD 研修会報告書

2010.9

FD 委員会

金沢学院短期大学

目 次

開催にあたって	学長 槻木 裕	1
I. 高等教育機関におけるリメディアル教育について		
	小松短期大学 教務委員会 FD 主任 新田 雅道	5
II. 金沢学院大学 学生生活の質向上のためのアンケートⅡ集計結果報告		
	FD 実態調査小委員会委員 中村 晋也	21
III. ある提案	大学 FD 委員長 中西 一夫	25
IV. 第 8 回 FD 研修会質疑・討論		29
閉会の辞 総括	短大 FD 委員長 國田 千恵子	35
資料 1 平成 22 年度前期 授業改善のための学生アンケート集計結果		37
資料 2 第 8 回 FD 研修会参加者アンケート集計結果		51

開催にあたって

学長 槻木 裕



開催にあたって

今回の金沢学院短期大学のFD研修会を、リメディアル教育をメインテーマとして、金沢学院大学との合同で開催することになりました。なにゆえにリメディアル教育であり、合同開催か？言うまでもないことですが、今や短大、大学のユニバーサル化が進んで、大学への進学率が50%を越えており、これを含めて、いわゆる高等教育機関への進学率がゆうに70%を越えている現状にあっては、基礎学力が明らかに不足している学生が相当に多く入学してこざるをえない。特に私どものような地方の私大、短大にあっては、これが大きな問題となる。だから、基礎学力の不足した学生を「間違えて入学した者」扱いをすることはもう私たちはできないし、彼らに対する指導の仕方について悩まないという教員はもはや大学、短大の教員たりえない、とまで言えるわけです。

もちろんFD活動ですから、両学ともに組織的方策を講ずる必要、少なくとも組織的対策を探る必要がある。それで今回、新田雅道先生にお越しいただいて、所属しておられる小松短期大学ではどのようにリメディアル教育に組織的に取り組まれているのかについて、お話をさせていただくことになりました。学部学科の成立基盤に違いがあり、小松短大の取り組み方をそのまま当方に当てはめることはできませんけれども、本学のリメディアル教育を考え、具体的な方策を探る上で、何らかの有益な示唆が得られるのではないかと期待しています。

I. 高等教育機関における リメディアル教育について

小松短期大学 教務委員会 FD 主任
新田 雅道



高等教育機関におけるリメディアル教育について

1. はじめに

大学全入時代を迎え、入学者の学力レベルの格差が広がってきている。一方、大学に課せられている到達目標は、「学士力の保証」に代表されるように厳格化されてきている。こういった板挟みの中で円滑に教育を行うには、学力レベルを均す必要がある。そこで、各大学で検討および実施が進められているのが、リメディアル教育や入学前教育である。

本報告は、本学におけるリメディアル教育の実際と効果についてまとめたものである。

2. リメディアル科目の導入の経緯と検討

(1) 導入の経緯

本学では、平成19年に学科改変を行い、医療系の国家資格を取得させるステージ(コース)が新設され、数学、物理の基礎学力が重要視されるようになった。そこで、全学的にリメディアル教育の導入を検討することになった(スライド2)。

(2) 科目の検討と設置

ステージごとに目標とする将来像が異なるため、目標資格や重点科目も異なることから、ステージごとに設置するリメディアル科目を検討した(スライド4-6)。科目内容は、正規の「数学」、「物理」、「英語」への橋渡しの内容とした(スライド12、16、20)。

3. リメディアル科目ごとの実施状況

新入生全員に対してプレースメントテストを行い、リメディアル教育を必要とする学生の選別をした。

(1) 物理基礎

学習指導要領を基に物理に関する科目の内容整理と、高校の学科ごとの履修状況調査を行った。定期試験は、プレースメントテストとほぼ同じ内容で行い、理解を確認した。(スライド7-13、除くスライド12)。

(2) 数学基礎

学習指導要領を基に数学に関する科目の内容整理と、高校の学科ごとの履修状況調査を行った。数学に対する姿勢が、ステージによって異なることがわかった。(スライド14-17、除くスライド16)。

(3) 英語基礎

プレースメントテストは実用英語検定試験を利用し、3級レベル未満を対象とした。ステージによって、英語力の差が顕著に表れた。(スライド18、19)。

4. おわりに

数回開講ただけで力がつくわけではなく、科目の必要性を理解させることに重点を置いた。ステージに集まる学生の特性を把握することができ、後の授業運営に反映させる資料とすることができた。

理解度別に複数の講座を開講する必要もあるかもしれない(スライド21)。

高等教育機関における リメディアル教育について

小松短期大学 地域創造学科

准教授 新田 雅道

1

リメディアル科目導入の経緯

- 2007年学科改変

臨床工学ステージ
保健言語療法ステージ
生産システムステージ } 新設

- 基礎科目(英語、数学、物理)の習得にバラツキ

- 授業を進める上で混乱
- 特に臨床工学ステージ
国家資格を取得させるために数学と物理は重要
- 高校で理数系は化学や物理を履修、文化系は生物を履修
医療関係に進みたい生徒は生物を履修していないことが多い

2

臨床工学技士国家試験の試験範囲

<午前>

医学概論(公衆衛生学、人の構造および機能、病理学概論及び関係法規含む)
臨床医学総論(臨床生理学、臨床生化学、臨床免疫学及び臨床薬理学含む)
医用治療機器学
生体計測装置学
医用機器安全管理学

<午後>

医用電気電子工学(情報処理工学含む)

生体機能代行装置学

(人工呼吸療法・体外循環装置・血液浄化装置・高気圧療法)

医用機械工学

生体物性材料工学

3

2008年リメディアル科目の検討

- その他のステージも見直し
 - **診療情報管理ステージ**
医療系なので、生物に興味を持って欲しい
 - **IT&オフィスステージ**
コンピュータや簿記は数字に強い方がよい
これからのビジネスマンは語学力も必要
 - **航空ビジネスステージ**
なんといっても英語は必須
 - **生産システムステージ**
機械と電気の基礎は必要
海外でも活躍できる人材を育てたい

4

導入についての検討事項

- **内容と時間数**
 - 英語、数学、物理を学習するのに最低限必要な範囲
 - 8コマとした

- **単位化すべきか**
 - 補習なので単位化すべきではない
 - 単位化しないと参加しない

➡ 1単位

- **対象者への強制力**
 - 選択科目なので強制力はない
 - 対象者は必ず履修するように指導

➡ 履修しない者もいた

5

2009年リメディアル科目の設置

	英語基礎	数学基礎	物理基礎	生物基礎
臨床工学		○	○	○
診療情報管理				○
IT&オフィス	○	○		
航空ビジネス	○			
生産システム	○	○	○	

6

高校の科目と内容（物理・生物）

科目名	内 容
理科基礎	物質の成り立ち、生命を探る、エネルギーの考え方、宇宙・地球を探る
理科総合A	自然の探求、資源・エネルギーと人間生活、物質と人間生活、化学技術の進歩と人間生活
理科総合B	自然の探求、生命と地球の移り変わり、多様な生物と自然のつり合い、人間の活動と地球環境の変化
物理Ⅰ	電気、運動とエネルギー、波
物理Ⅱ	力と運動、電気と磁気、物質と原子、原子と原子核
生物Ⅰ	生命の連続性、環境と生物の反応
生物Ⅱ	生物現象と物質、生物の分類と進化、生物の集団

7

物理基礎履修対象ステージの高校物理の履修状況

学 科	普通科・その他		工業科		商業科		合計
	履修	未履修	履修	未履修	履修	未履修	
高校時代の物理履修状況	12人	10人	10人	4人	0人	6人	42人

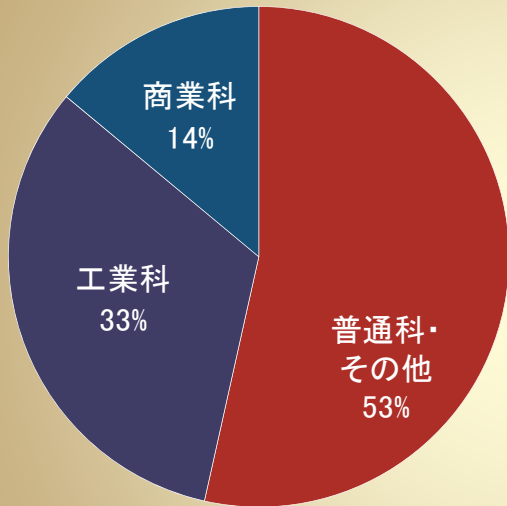
<参考>
高校物理の開講状況

	理科総合A	理科総合B	物理Ⅰ	物理Ⅱ
普通科	○		○	○
工業科	○		○	
商業科		○		

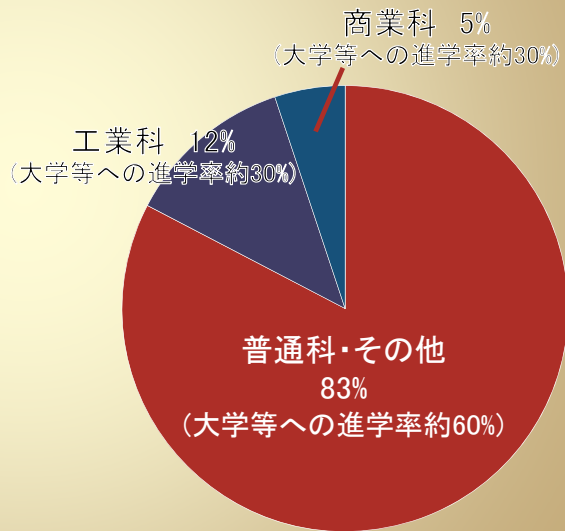
理解度は物理Ⅰの範囲で十分

8

物理基礎履修対象ステージの出身高校学科割合



<参考>
石川県内の高校の学科割合

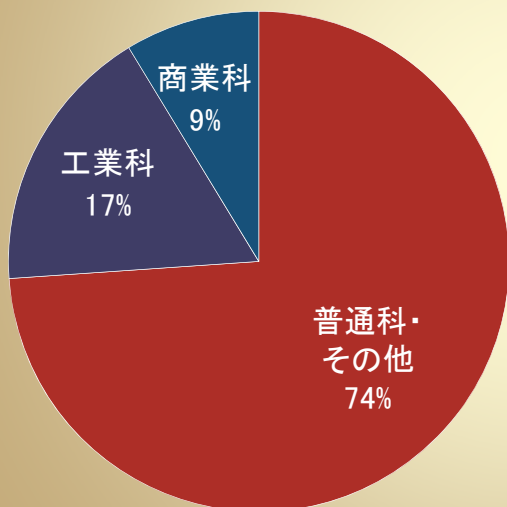


資料 県教育委員会(平成21年度)

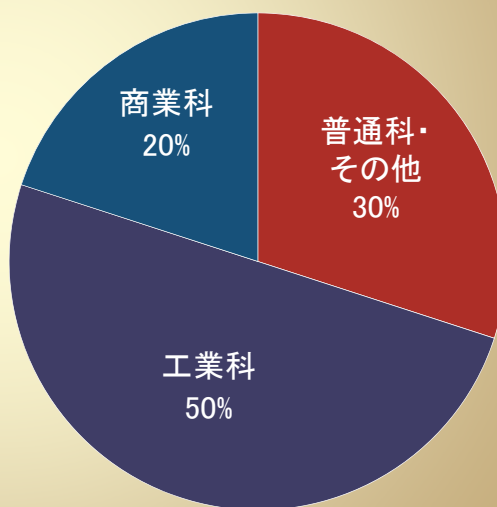
物理基礎履修対象ステージの出身高校学科割合

ステージ別

臨床工学ステージ



生産システムステージ



物理基礎実施状況

- プレースメントテストを実施

商業科では物理は開講せず

- ボーダーライン未満の学生を履修対象

学 科	普通科・その他		工業科		商業科		合計
	履修	未履修	履修	未履修	履修	未履修	
高校時代の 物理履修状況	12人	10人	10人	4人	0人	6人	42人
物理基礎 履修対象	4人	8人	2人	3人	0人	4人	21人
割 合	33.3%	80.0%	20.0%	75.0%	0.0%	66.7%	

11

物理基礎実施状況

- 授業計画(8回開講)

回	講 義 内 容	分野
第1回	オリエンテーション/物理単位とベクトル表現	全般
第2回	ベクトルの計算/変位と速度/速度と加速度/ 運動の三法則/自由落下	力学
第3回	万有引力/円運動/運動量と力積	力学
第4回	仕事とエネルギー/電気で使われる単位と電気素子	力学・電気
第5回	電荷とクーロン力/電位 コンデンサー	電気
第6回	導体と誘電体/オームの法則/キルヒホッフの法則	電気
第7回	磁気/電磁誘導/電気振動/直流と交流	電気
第8回	交流回路の基礎/超電導	電気

実際は力学5回、電気3回になってしまった

- ベクトルを理解していない
- 速度の概念を理解していない

12

物理基礎実施状況

- 定期試験を実施
- 不合格だった学生には2回の再試験を実施

履修者数	合格者数		
	定期試験	再試験	再々試験
21人	9人	7人	5人

- 定期試験で合格できなかった学生には、補習後再試験
- さらに合格できなかった学生に補習後再々試験

13

高校の科目と内容（数学）

科目名	内 容
数学基礎	数学と人間の活動、社会生活における数理的な考察、身近な統計
数学Ⅰ	方程式と不等式、二次関数、図形と計量
数学Ⅱ	式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数、微分・積分の考え
数学Ⅲ	関数(分関数、逆関数)、極限、微分、積分
数学A	平面図形、集合と論理、場合の数と確率
数学B	数列、ベクトル、統計とコンピュータ、数値計算とコンピュータ
数学C	行列とその応用、式と曲線、確率分布、統計処理

数学Ⅰ・Aまで履修してあるとよ
いのだが・・・

14

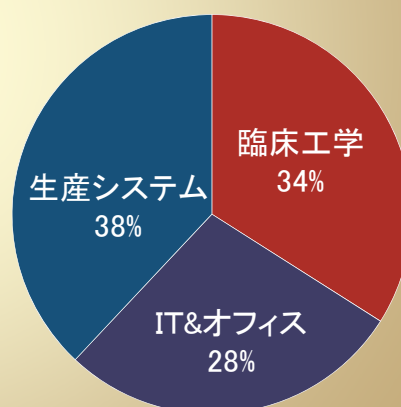
数学基礎対象ステージの出身学科別履修割合

- プレースメント試験を実施
- ボーダーライン未満の学生を履修対象

出身学科別履修率

ステージ	対象者の出身高校の学科		
	普通科・その他	工業科	商業科
臨床工学	44%	40%	100%
IT&オフィス	36%	67%	33%
生産システム	67%	50%	75%

数学基礎履修割合



15

数学基礎実施状況

- 授業計画(8回開講)

回	講義内容
第1回	授業概要/分数・小数の計算/四則演算
第2回	整式の計算
第3回	1次関数・1次方程式
第4回	方程式の立て方
第5回	2次関数・2次方程式
第6回	不等式
第7回	場合の数・確率
第8回	定期試験

16

数学基礎定期試験合格状況

ステージ	ステージ人数	履修人数	合格者数	合格率	対象率
臨床工学	23人	11人	2人	18%	48%
IT&オフィス	29人	9人	0人	0%	39%
生産システム	20人	12人	11人	92%	60%
合計	72人	32人	13人	41%	44%

ステージ人数中の
数学基礎履修割合



- 臨床工学とIT&オフィスは、数学ができる学生とできない学生の格差が大きい
IT&オフィスは特にその差が大きい
- 生産システムは、卒業から時間が経っているが、勤勉者が多い

17

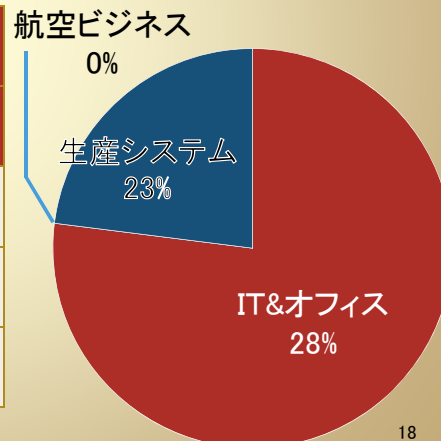
英語基礎対象ステージの出身学科別履修割合

- プレースメント試験を実施
- ボーダーライン未満の学生を履修対象

出身学科別履修率

ステージ	対象者の出身高校の学科		
	普通科・その他	工業科	商業科
IT&オフィス	43%	100%	17%
航空ビジネス	0%	0%	—
生産システム	17%	30%	0%

英語基礎履修割合



18

英語基礎のプレースメントテストの構成

- 英語は高校時代までの積み重ね
どのレベルまでの力があるかを把握したかった
- 30問出題

レベル	出題数
英検5級レベル	10問
英検4級レベル	10問
英検3級レベル	7問
英検準2級レベル	3問

- 試験結果と分析を個人ごとに配布

19

英語基礎実施状況

- 授業計画(8回開講)

回	講義内容
第1回	Fashion(名詞・所有格)/People(be動詞・形容詞)
第2回	Food(一般動詞：他動詞、人称代名詞), Sports(一般動詞：自動詞)
第3回	My Town(there構文)/Weekend(動詞の過去形)
第4回	My Dream(未来形・意志)/My Hobby(wh疑問文)
第5回	My Major(進行形)/My Favorite Things(受け身)
第6回	At a Hospital(助動詞)/Directions(接続詞)
第7回	Talking about my Country(比較)/Travel(不定詞・動名詞)
第8回	My Family(現在完了)/まとめ

20

考 察

- **数学基礎**
 - 数学アレルギーなのか、できない学生はとことんできない
- **物理基礎**
 - 学習意欲が見えてこない学生がいる
 - 基礎学力固めという位置づけから週2コマ4週がいいのでは
- **英語基礎**
 - IT&オフィスは学習意欲が弱かった
 - 航空ビジネスは履修対象者はいなかった
- **プレースメントテストの判定ラインをどこに敷くかが難しい**
 - 履修対象人数の設定とも関係
 - 学力にいくつかの層がある
 - 基礎の他に中級レベルや基礎の基礎が必要か
- **新学習指導要領との連動**
 - 数学と理科は平成24年度から実施

21

新学習指導要領（高校）

各教科	各教科に属する科目
国語	国語総合, 国語表現, 現代文A, 現代文B, 古典A, 古典B
地理歴史	世界史A, 世界史B, 日本史A, 日本史B, 地理A, 地理B
公民	現代社会, 倫理, 政治・経済
数学	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学Ⅲ, 数学A, 数学B, 数学活用
理科	科学と人間生活, 物理基礎, 物理, 化学基礎, 化学, 生物基礎, 生物, 地学基礎, 地学, 理科課題研究
保健体育	体育, 保健
芸術	音楽Ⅰ, 音楽Ⅱ, 音楽Ⅲ, 美術Ⅰ, 美術Ⅱ, 美術Ⅲ, 工芸Ⅰ, 工芸Ⅱ, 工芸Ⅲ, 書道Ⅰ, 書道Ⅱ, 書道Ⅲ
外国語	コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ, 英語表現Ⅰ, 英語表現Ⅱ, 英語会話
家庭	家庭基礎, 家庭総合, 生活デザイン
情報	社会と情報, 情報の科学

URL http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/kou/kou.pdf

22

貴学におけるリメディアル科目の必要性は？

- コンピュータでアートデザインをするときの知識として
 - カラーは16進数表現
 - データ量の管理
 - 記録メディアを意識
 - データ転送時の配慮

- 生物の基礎はなくて大丈夫なのか

ただし高校生物よりも学科に直接関係のある単元

本学では『人体生理学の基礎』を開講

Ⅱ. 金沢学院大学 学生生活の質向上のための アンケートⅡ集計結果報告

FD 実態調査小委員会委員 中村 晋也



金沢学院大学 学生生活の質向上のためのアンケートⅡ集計結果報告

1. はじめに

金沢学院大学 FD 委員会の実態調査小委員会は、2009 年度に「学生生活の質向上のためのアンケートⅡ」を実施した。その目的は、

- ①学生の視点から見た“よかった”授業の調査
- ②学生の相談内容とその相談相手としての教員の位置づけの調査
- ③これらのデータ分析による、学生の視点に立った授業を実施するための基礎資料の提供
- ④学生支援も視野に入れた学生とのコミュニケーションの在り方に関連する資料の提供

である。

調査の概要を以下にあげる。

- ・実施期間：2010年1月19日(火)～2月8日(月)
- ・調査対象：1～3年生 1086名 (2010年1月現在)
- ・回収状況：985名分 (回収率：90.7%)

2. 調査結果

2-1. 設問1：学生の視点から見た”よかった”授業

入学から現在までの授業でよかったと思う授業名と担当教員名を記入し、その理由として「新しい知識が身に付いた」「新しい技術が身に付いた」など15の選択肢から最大5つまでを選択する設問である。

まず、教員個人に着目し、各学科内で多くの学生から回答があった上位2名の教員をとりあげ、その教員が評価された理由を調べた。その結果、“よかった”理由として「新しい知識が身に付いた」が共通して多く回答があった。それ以外の理由をみると、「技術が身につくことがよかった」「学びたいことが学べてよかった」など授業の内容に関係するものがあった。また、「熱意が感じられた」「学生を理解し尊重してくれた」「質問しやすい雰囲気だった」など教員のキャラクターが影響を与えることもわかった。以上のことから、教員個人における評価は、

「知識中心型」 「授業内容充実型」 「教員特徴型」

の3パターンに大別されることが明らかになった。

次に、学科ごとによかった理由の分布を調べた。その結果、以下のことが明らかになった。「新しい知識が身に付いた」は各学科共通で多く回答があった。一方、学科によってはそれ以外の回答にいくつかの特徴がみられた。例えば、経営情報学部においてビジネス関係は「学びたいこと」とより「将来役に立つ」ことが評価されている。また、文学部、美術工芸学科や文化財学科は、授業の内容が「将来役に立つ」と感じられにくい場合でも、それが「学びたいこと」と感じられれば、高評価につながるということがわかった。これらをまとめ、学科の特性を比較し、議論した。また、全般的に「シラバスに沿った授業」や「成績評価が公平」はあまり重視されていないこともわかった。

2-2. 設問2~4：相談ごとに関する設問

「勉強のこと」「部活動・サークルのこと」など14項目にわたる項目に対して、相談する対象を「家族」「友人」「教員」など14の選択肢から選択する設問である。また、相談した経験がないあるいは相談できない場合は「相談できる人がいない」「誰に相談してよいかわからない」など数項目の選択肢から選択する。設問2は入学から現在（アンケート回答時）までの経験、設問3は現在の状態、設問4は将来のことについて問うた。

発表では、時間の関係から勉強のことおよび休学や退学のことの2つに関する相談をとりあげた。そして、将来については①相談相手を想定できるか？②誰に相談したいか？の2つの観点から、過去の経験については、①相談した経験はあるか？②入学から現在までに、相談ごとがあったか？③誰かに相談したか？④なぜ相談しなかったか？の4つの観点からデータを整理した。

その結果、以下のことが明らかになった。

- ・「勉強のこと」では、全般的に学内友人に相談した経験が多く、次いで家族や大学教員に相談した経験を持っていた。将来についても同様の傾向で相談相手を想定しているが、大学教員が想定される割合は、過去の相談経験を上回る数値を示した。
- ・「勉強のこと」に関する相談相手として、教員は概ね上位に想定されているが、「教員に相談した経験があるが、将来的には教員を相談相手として想定しない」ケースが30%もあった。これは、教員に相談したことがいい結果に結びつかなかったケースを示唆し、教員として適切な対応ができていないか考える必要があることを示している。
- ・「休学や退学のこと」では、全学の14.4%（139名）が入学からアンケート回答時までに、相談した経験を持っていた。その相談相手としては、家族が最も選ばれており、次いで学内外友人が選択されていた。将来についても、家族を相談相手に想定する割合は高く、次いで大学教員や学内友人が想定されていた。
- ・「休学や退学のこと」に関する相談相手としても、教員は概ね上位に想定されている。特に、日本文学科と情報ビジネス学科では実際に教員に相談した割合が高かった。ただ、このデータはアンケートに回答していることより、休学や退学を踏みとどまっている学生のデータであり、休退学をした学生のデータはとれていないことを考慮する必要がある。
- ・「勉強のこと」「休学や退学のこと」に関する相談については、全学で約2割の学生が相談相手を想定できていない。また、実際に相談ごとがあった学生については、「勉強のこと」「休学や退学のこと」で相談しなかったのはそれぞれ6.7%と26.6%であった。これは、相談する相手のいない学生や相談しない学生が、ともすれば問題をかかえても解決できない可能性を示唆するものである。これらの学生に対しては、なんらかの支援の検討が必要であろう。

3. おわりに

一言でいえば「日ごろの教員と学生とのコミュニケーションが重要である」ということであろう。良好なコミュニケーションの結果、学生の視点に立った授業ができ、いわゆる“よかった”授業に結びつくことになる。また、相談ごとについていえば、勉強での困りごとなどや休退学についての問題に対して教員による適切な対応があれば、大学が嫌にならずにすむかもしれない。アンケートの結果から、教員は学生に結構“あてにされている”ことが明らかになった。教員は“あてにされている”ことへの自覚をもつべきであろう。

ある提案

大学FD委員長 中西 一夫



ある提案

1. はじめに

大学進学率が50%を越えて、大学ユニバーサル化といわれている現在、基礎学力の低下とともに社会人基礎力の欠如という問題がクローズアップしている。このことが就職試験突破に関してプレーキになっている。具体的には、spiなどの筆記試験に対して点数がとれないこと、また、面接ではグループディスカッションなどで発言できなくて不合格になるということがある。まさに今、本学はこのような問題を抱えている。

2. 提案

この問題を打開するために1つの提案をする。すなわち「このような問題に対応するために授業時間の一部を使ってみる」とである。既存の科目としては、就職教育講座やプレゼミがコミュニケーション能力育成などの社会的基礎力養成の役割を担っているが、それに加えて、通常の授業の一部、例えば後半の20から30分を使って、「グループディスカッション」「問題を解く」「意見を発表して議論」「spi対策」などをすることの提案である。槻木学長は7月の教学審議会で「広い意味での就職教育・社会教育を念頭に置き、授業等において、自身の体験談等をまじえて親しめる教員、親しめる授業を目指してほしい」と発言した。また、理事長も「脱線のすすめ」といった言葉をいわれたとか聞いているが、この提案もそれらの延長上にある。

3. 具体的事例

発表者は担当科目「大学とは」の中で、いわゆる橋本メソッドを応用して以下のことを試行した。授業の後半20分程度の時間を使い、4~5人程度のグループに対し、いわゆる答えのない問題を出した。10分程度の時間の中でグループとしての解答を1つにまとめることを求め、それらを発表し、比較、議論を行った。答えのない問題として水平思考の問題から適当にピックアップした。本年度前期の終りに2回ばかり試してみたが、学生の反応として、42人中、おもしろかったとかこのようなことを考えることは必要だとかいう肯定的な意見を持ったものが16人いた。一方、否定的なものが2人いた。

4. 結び

大学はかつての一部のエリートを対象にしてアカデミックなことだけを教える場ではなくなっている。専門教育に加え、キャリア教育や人間教育の要素が必要とされている。昨今の厳しい大学経営の中、生き残るべく、教員もこうした時代の変化に対応することが求められている。上の提案がその一助になれば幸いである。

第8回 FD 研修会質疑・討論



第8回FD研修会質疑・討論

I. 高等教育機関におけるリメディアル教育について

質問1. 中村氏 (大学: 美術文化学部)

- (1) 実際に得られた成果について、実施前と実施後でどのような効果があったか。
- (2) 出身高校のばらつき、入試形態状況(面接または科目選択)もあると思うが、状況を教えてほしい。

回答1. 新田氏

- (1) 臨床工学は入ってきた翌年から基礎科目を実施した。この3月に受験した国家試験合格率80%であった。2年目から基礎科目をおこなっているので、来年3月試験のため、今は話せない。
- (2) 校長推薦は面接。数学、英語で航空受験であっても、すでに国語で受験して合格し入学している。

質問2. 二階堂氏 (短期大学: 食物栄養学科)

- (1) 8回おこなったのはプレメントテストをやってデスペレーションはどうだったのか。終わった後、ピークが右によったのか。15回おこなったらもっと効果があったのではないか。

回答2. 新田氏

- (1) 8回の中でまとめる。期末試験はプレメントと同じものにして、先ほどの効果になったが、本当に効果があったのか厳しい。15回やっても科目(数理)との橋渡しでいいのかと思う。

質問3. 水洞氏 (大学: 文学部)

- (1) 実施体制について聞きたい。8回ということであるが、どんな担当の割当てか。一部の先生に負担が掛かるのではないか。

回答3. 新田氏

- (1) 数学、英語は同じ担当教員がもっている。物理、生物は担当教員とすり合わせしながら行なう。補習の形は、入学前にあって、そこを基本にして数・英があればいいが難しい。

質問4. 山崎氏 (大学: 美術文化学部)

- (1) 本学でもリメディアル教育を検討中である。このリメディアル教育なるものが学生に対してどのような位置づけにあるのか。どこにプレゼンテストをするのか、思わしくないラインはこの図のように下にあるのか。学生が受講に対して前向きであるのか、どのような対応をもっているのか。

- (2) 小松短大は理科系、国家試験を受けなくてはならないリメディアル教育であるが作れやすく羨ましい。本学は事務系ということで、その基礎をどう構築されるかがリメディアルにあるが、本学は社会人としてのリメディアルをどのように落ち込ませていくかアドバイスをほしい。

回答4. 新田氏

- (1) こちらの希望通りにいかない。こちらの希望通りに100点とって、該当者なしが一番良い。しかしこんなわけにはいかない。プレズメントテストは電気が好きだと点数がとれてしまう。学習レベルは生徒によって異なる。単位化したものについては、補修して卒業要件になるので、甘くしてよいのか、今後しっかりやれという意見もあった。
- (2) コミュニケーション力いわゆる生きる力。200円の2割引はいくらかなど日々の生活を含めてSPIの範疇の教授的なものを入れたら良い。コミュニケーション力は社会では第一と言われているが、その単科の科目だけではだめで、複合するように小松短大でも検討している。

質問5. 奥井氏 (大学：経営情報学部：リメディアル委員)

- (1) 小松短大では学内で行ったが、こちらでは授業のコマ数もあり、外部の人にお願いとどんなデメリットがあるか。
- (2) 選択にしているので取る。11番シートを見ると高校時代に未履修7~8割と高く感じるがイメージとしては多くの人を受けているが、これを必修にできない理由は何か。

回答5. 新田氏

- (1) 外部講師のデメリットは非常勤なのできめ細かく出来ない。その時だけで終わってしまい各学生の指導ができない。
- (2) 小松短大は学内で数学、物理を担当する人がいた。ホームルームがあつてクラスアワーは必修。あとは全部選択。主任が必修扱いとして指導している。この基礎科目だけ必修にすると卒業できなくなるので、やりたいのはやまやまだが、その学生達にはどうしたらよいかと思う。

以上

Ⅱ. 金沢学院大学 学生生活の質向上のためのアンケートⅡ集計結果報告

質問1. 秋山氏（大学：文学部）

質問と感想を1つずつ申し上げます。学生評価の高い教員についてのところで、各学科2名ずつ上位の教員を挙げておられましたが、こういう科目を選んだら評価が高いとか、どちらかという演習や実習等の科目の方が人気のある傾向があるとか、そういう科目や授業形態による違いがあるのかというのが1つです。

それと感想ですが、休学や退学の観点でなんですけど、例えば女子学生は相談に来た時点でもう決めていて、そこから意見が変わらないのが私の経験です。そして多分教員だけではなくて、職員にも相談に行っていると思います。私達のところに来る前に色々なところで相談したり考えて、来る頃には大体決めているのかもしれませんが、SD(スタッフ・ディベロップメント)ではありませんが、そちらに関しても相談に行ったら考えていくように、教員だけの問題ではなく全体で考えていきたいと思っています。

回答1. 中村氏

まずは質問に対する回答として、教科の特性があるかないかということでは、学科の特性、例えば美術文化学部と経営情報学部で教える内容が違うので、授業形態も必然的に違いますし、そういうことと関連していて、講義、学年、演習など、重きを置くところでおっしゃる通り評価も違います。でも何が違うとかそれが何かとかまでは現在のところまだ言えません。しかしご指摘いただいたこのことにつきましては、報告書にまとめ、近々コメントを添えて公表したいと思います。

もう1つの感想についてですが、休学や退学は、確かに腹をくくって判子をもらいに来ただけというものもあります。教員のところに来るのがそういう学生だけでは、やはり難しい。しかし私の経験でこれは1人でしたが、なんやかんや聞いたらスッキリしたのか、今は普通にやっています。やっぱり1人だけのことですが、変われるきっかけになることもあります。そういう先生の存在が、つながりになればいいのではないかと思います。それでこのことに関連して、「なんでも相談室」がどこまで機能しているか調べたら、残念ながら少ないです。職員もいかに学生に理解してもらえるか、あるいは、今「何でも相談室」が今の状況で果たして良いのか、こういうことも考えなければなりません。これも報告書で公表していきたいと思っています。

質問2. 相良氏（短期大学：食物栄養学科）

今回のアンケート調査に関して、男子学生と女子学生の割合がどのくらいでしたのか、もしありましたらお願いします。

回答2. 中村氏

男女差については分析をまだしていませんので、性別における相違の有無はまだやっておりません。しかしご指摘いただきましたので報告書の中では追加させ、検討いたします。

以上

閉会の辞

総括

短大 FD 委員長 國田 千恵子

このたびの FD 研修会は、金沢学院大学・金沢学院短期大学が合同で行った初めての研修会であり、短期大学としては第8回目を数えます。大学・短期大学が「リメディアル教育」をテーマに、合同研修会を実施するに至った経緯としては、授業の質にかかわる「基礎学力の低下」と「学力の二極化」が両学共通の問題であり、これまでの FD 研修会等においても指摘されてきたことにあります。

基礎学力の低下は、本学だけが抱える問題ではありませんが、「リメディアル教育」の導入にあたっては、設立基盤や学校の規模、学部や学科等によって実施の難易度や必要性の認識などに温度差があることは否定できません。

しかしながら、槻木学長のご挨拶の通り、大学のユニバーサル化が進み、基礎学力が不足している学生が入学する現状を考えますと、「リメディアル教育」の組織的取り組みが、本学でも近々に必要であると思われまます。

そこで、今回の FD 研修会では、全学的に「リメディアル教育」を導入された小松短期大学の実施状況とその効果等について、教務委員会 FD 主任の新田雅道先生をお迎えし、お話し頂きました。また、金沢学院大学 FD 実態調査委員会委員の中村晋也先生からは、2009 年度に実施された「金沢学院大学 学生生活の質向上のためのアンケートⅡ集計結果報告」について伺いました。

まず、小松短期大学における「リメディアル教育」は、医療系の国家資格を取得させるステージ（コース）が新設された際、資格取得に必要な数学・物理の習得にバラツキのあったことがきっかけとなり、リメディアル科目の検討が行われました。導入にあたっては、高校時代の履修状況等の調査を始め、リメディアル科目の学習内容や時間数、単位化や履修対象者への強制力、プレースメントテスト判定ラインなどの検討が行われており、本学にとっても参考となる、具体的かつ貴重なお話を伺うことができたと思います。

次に、「金沢学院大学 学生生活の質向上のためのアンケート調査の集計報告」からは、学生の視点に立った授業や学生支援を視野に入れた学生とのコミュニケーションのあり方について、幾つかの示唆を得ることができたと思います。教員と学生の日ごろからのコミュニケーションが大切であること、学生から学ぶという意識の重要性を改めて考えさせられる報告でした。

最後に、金沢学院大学 FD 委員長の中西一夫先生からは、基礎学力の低下や社会的基礎力（コミュニケーション能力・問題発見・解決能力・自己管理能力）欠如の現状を打開するための提案として、学生参加型授業の事例をご紹介いただきました。

今回の FD 研修会を通じ、私たち教員は、大学ユニバーサル化の現状を踏まえた授業内容と方法の改善に努め、高等教育機関が社会に果たすべく役割を担っていかねばならないことを痛感しました。加えて、学生を中心に置いた教職員間のコミュニケーションと連携（組織的協力体制）が、今後ますます必要になることを再認識する機会にもなったと思われまます。

資料 1

平成 22 年度前期 授業改善のための学生アンケート集計結果

平成22年度前期 授業改善のための学生アンケート集計結果

1. 学生アンケート実施

実施日：平成22年7月9日(金)～7月26日(月)

科目数：108科目 (回答数：3382枚)

2. アンケート集計処理

短期大学全体	→	108科目	(3382枚)	専攻科も含む	
ライフデザイン総合学科	→	61科目	(1599枚)	} 両学科共通は 8科目 (234枚)	
食物栄養学科	→	44科目	(1908枚)		
専攻科 食物栄養専攻	→	11科目	(109枚)		
1年生科目	→	45科目	(1919枚)	専攻科は含まず	
2年生科目	→	52科目	(1354枚)	専攻科は含まず	
基礎科目・教養科目	→	21科目	(801枚)	専攻科は無い	} オーバーラップは 2科目 (23枚)
専門科目・教職科目	→	89科目	(2604枚)	専攻科も含む	

3. 短期大学全体のアンケート集計結果

(1) 評価が良い回答

問1. 先生の声は聞こえましたか。

問4. 教科書・参考書・配付資料などは活用されましたか。

問8. 授業に対する先生の熱意が感じられましたか。

(2) 評価が悪い回答

問12. あなたは授業の「講義要項(シラバス)」を活用しましたか。

問13. あなたは、この授業の勉強(予習・復習・課題など)をしましたか。

(3) 授業について当てはまる項目で回答数が多い項目

(%は受講学生数に対する回答した学生の割合)

5. 内容が難しかった。 (27.5%)

7. 自分の基礎知識がなかった。 (26.2%)

4. 量が多かった。 (21.1%)

8. 自分が勉強不足だった。 (20.5%)

4. 短期大学全体と両学科の比較、1・2年生科目の比較

(1) 短期大学全体、ライフデザイン総合学科、食物栄養学科の傾向はほぼ同じである。

専攻科では「自分の基礎知識がなかった」「自分が勉強不足だった」と答えた学生が多い。

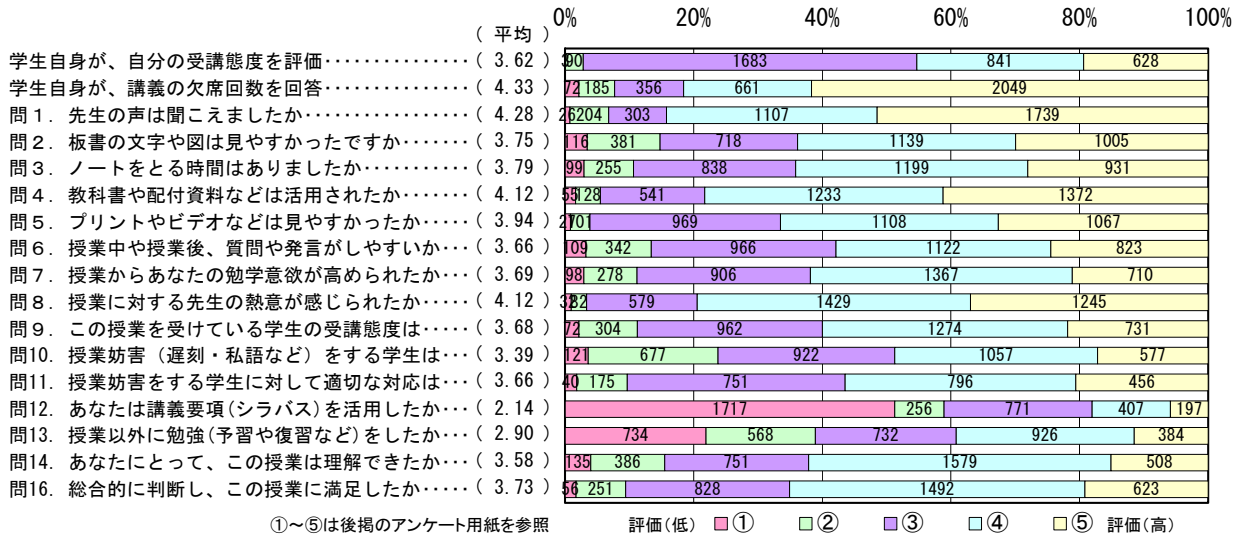
(2) 1年生科目と2年生科目の比較では、1年生の方が「量が多かった」「進み方がはやかった」「自分が勉強不足だった」と答えた学生が多い。

(2) 基礎科目・教養科目と専門科目・教職科目の比較では、専門科目・教職科目の方が「量が多かった」「内容が難しかった」「進み方がはやかった」と答えた学生が多い。

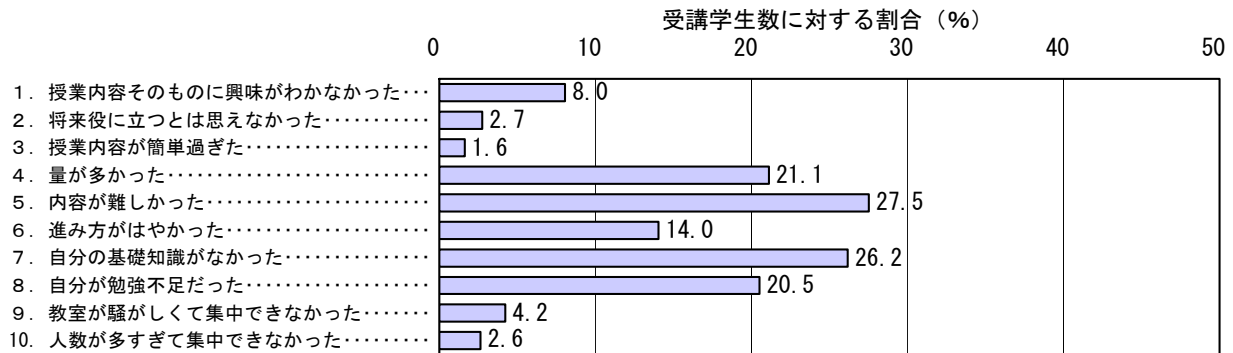
(松井良雄)

短期大学の全科目 (専攻科も含む)

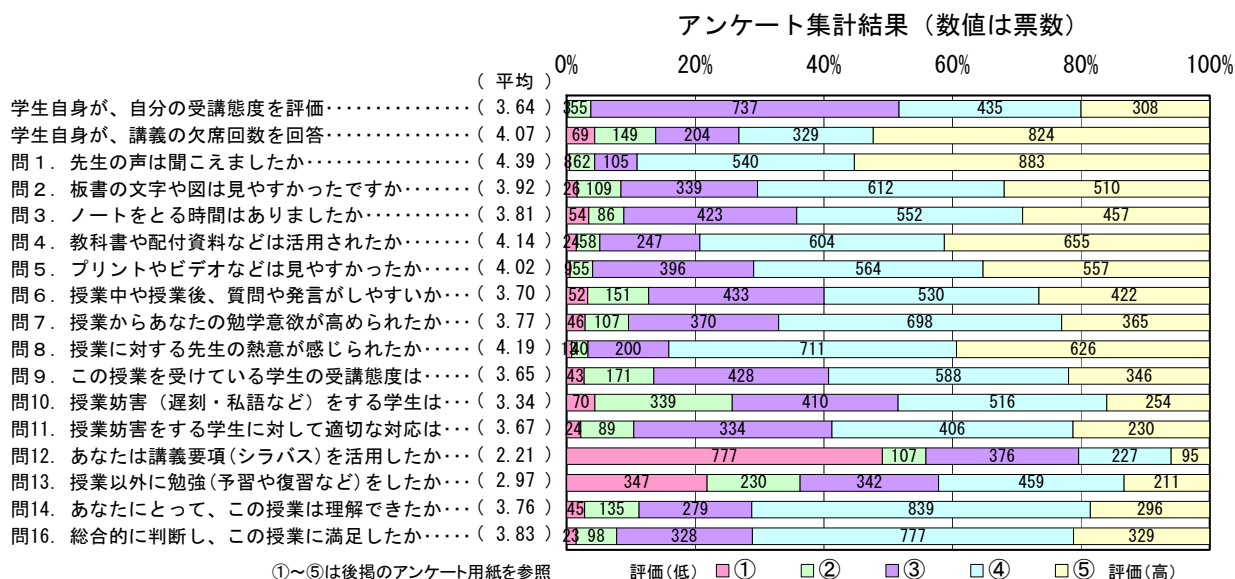
アンケート集計結果 (数値は票数)



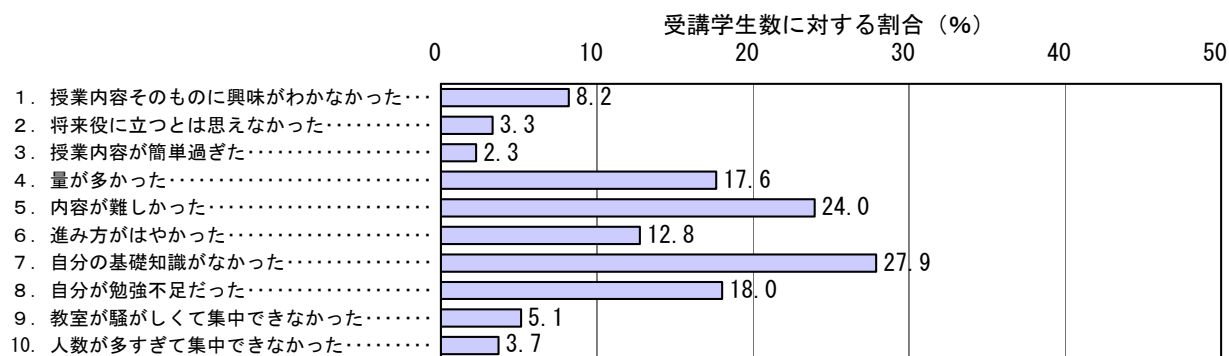
問15. この授業について、当てはまる項目 (複数回答可)



ライフデザイン総合学科

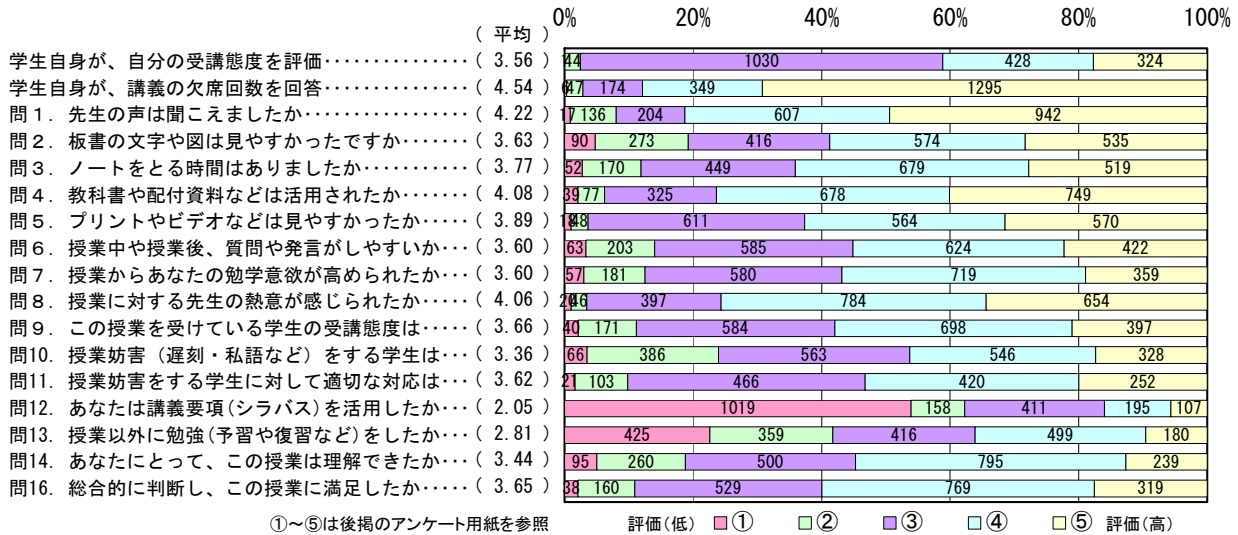


問15. この授業について、当てはまる項目（複数回答可）

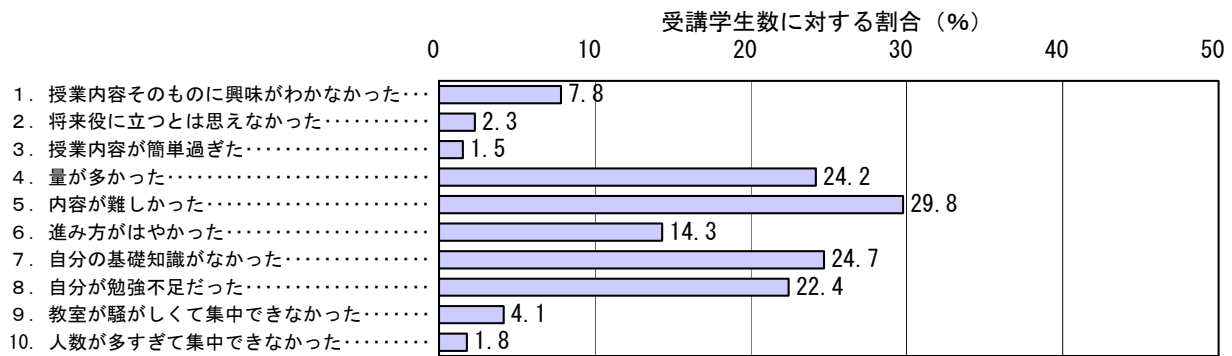


食物栄養学科
(専攻科は含まず)

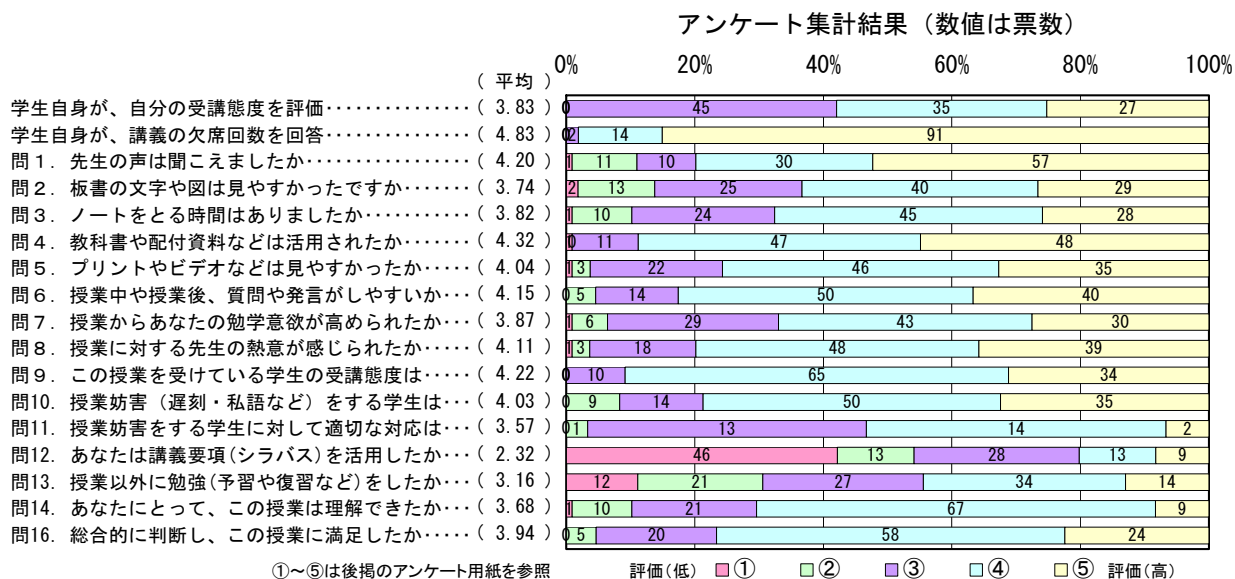
アンケート集計結果 (数値は票数)



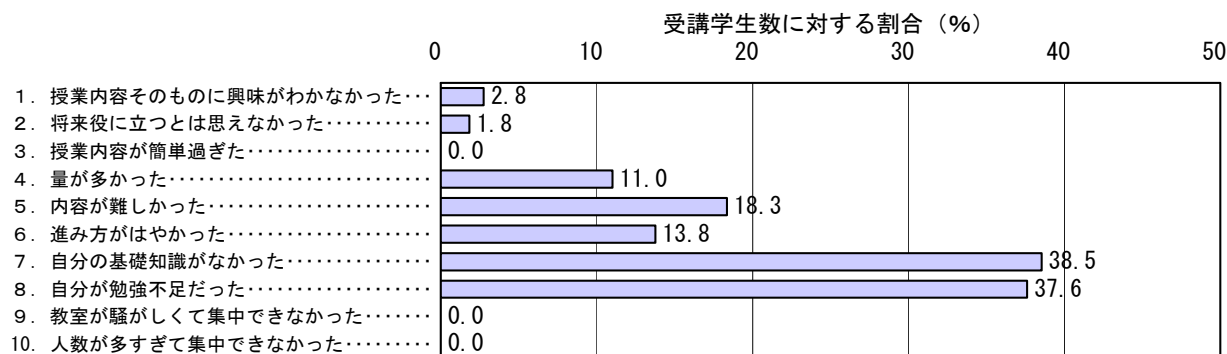
問15. この授業について、当てはまる項目(複数回答可)



専攻科 食物栄養専攻

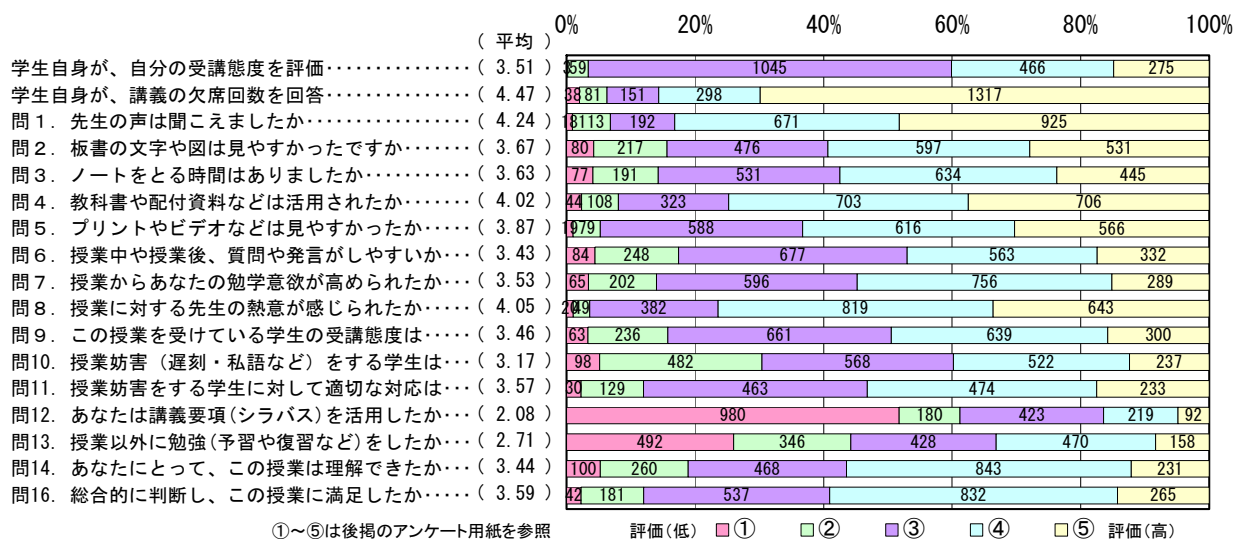


問15. この授業について、当てはまる項目 (複数回答可)

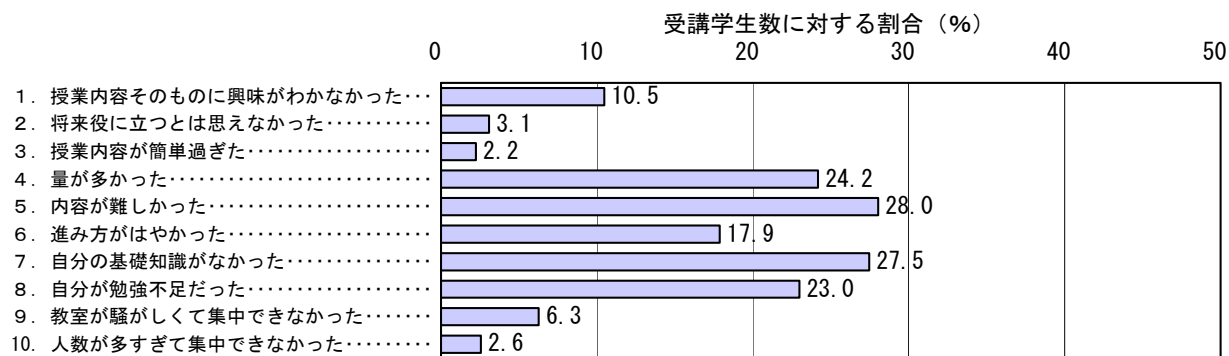


1年生科目
(専攻科は含まず)

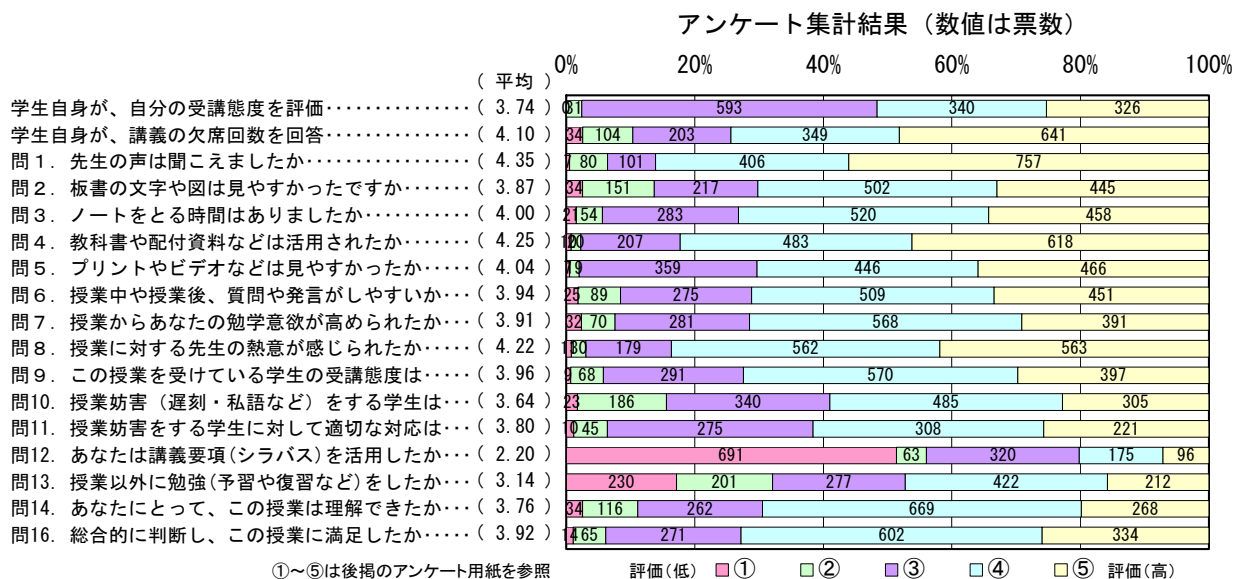
アンケート集計結果 (数値は票数)



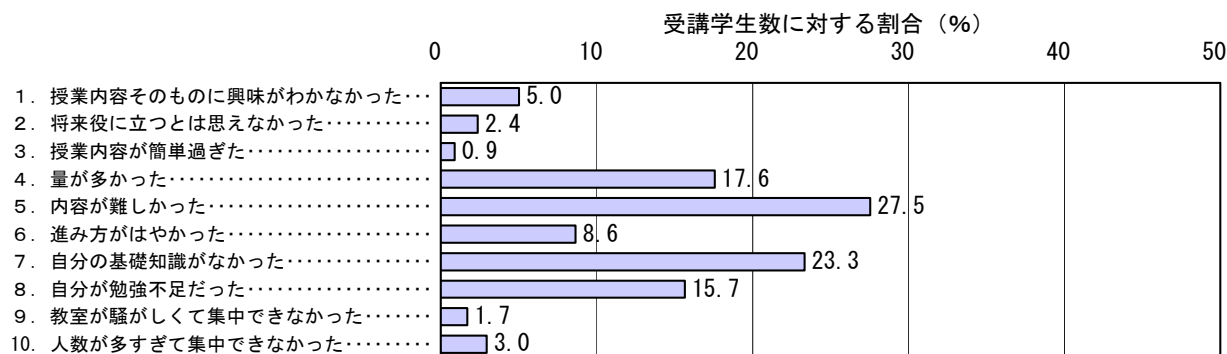
問15. この授業について、当てはまる項目 (複数回答可)



2年生科目
(専攻科は含まず)

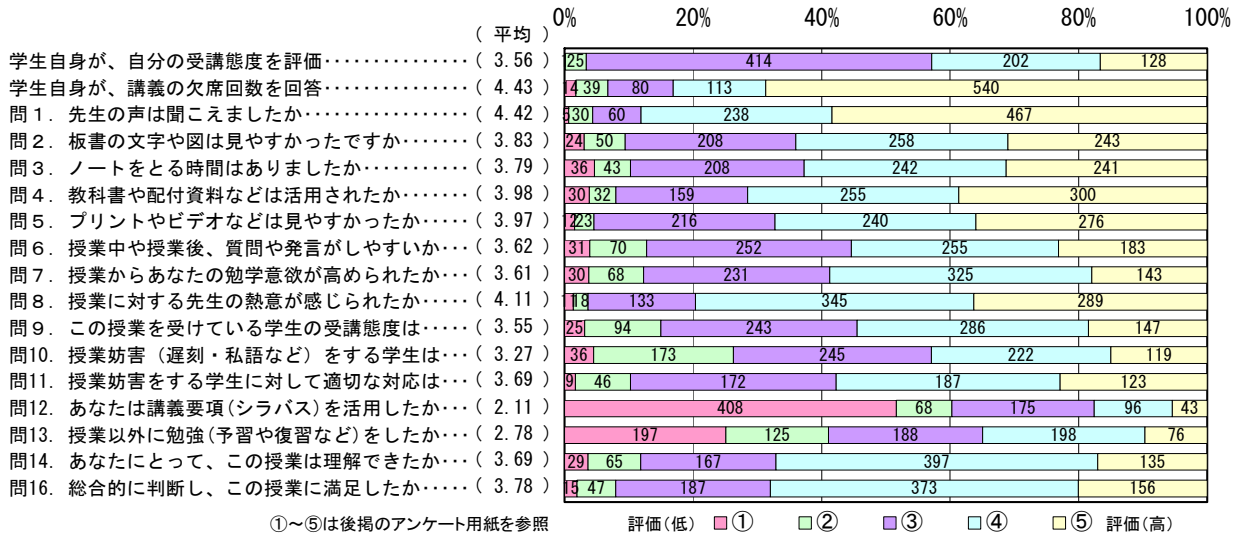


問15. この授業について、当てはまる項目 (複数回答可)

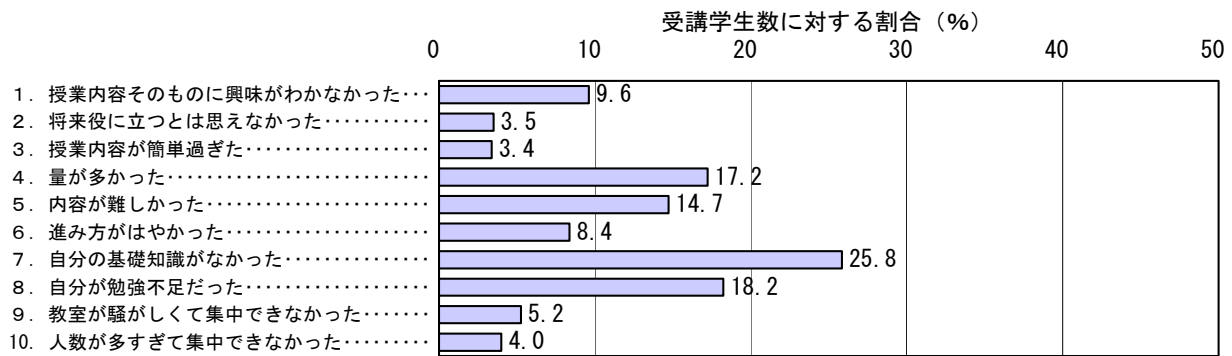


基礎科目
教養科目

アンケート集計結果 (数値は票数)



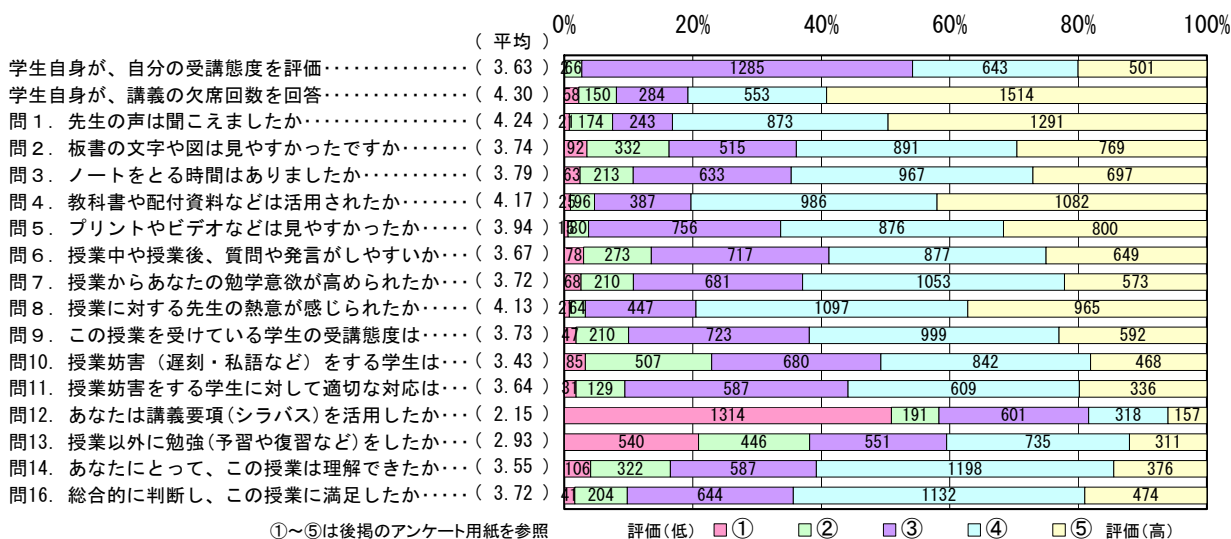
問15. この授業について、当てはまる項目(複数回答可)



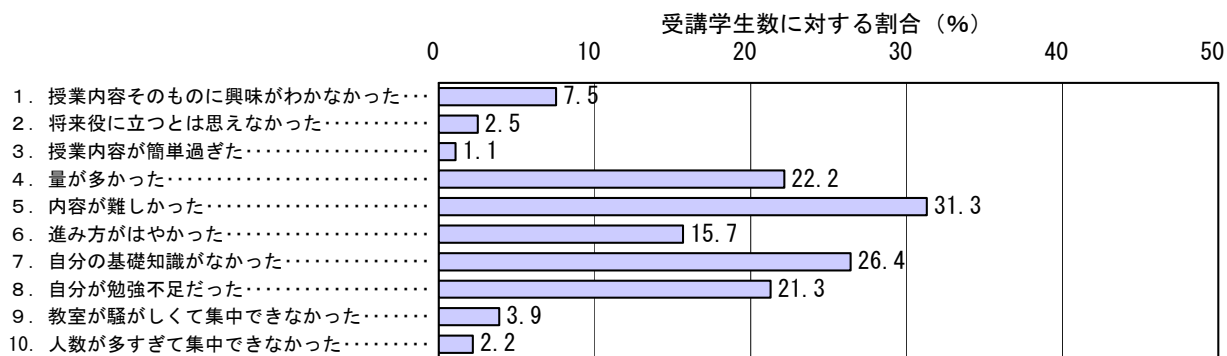
専門科目（専攻科も含む）

教職科目

アンケート集計結果（数値は票数）

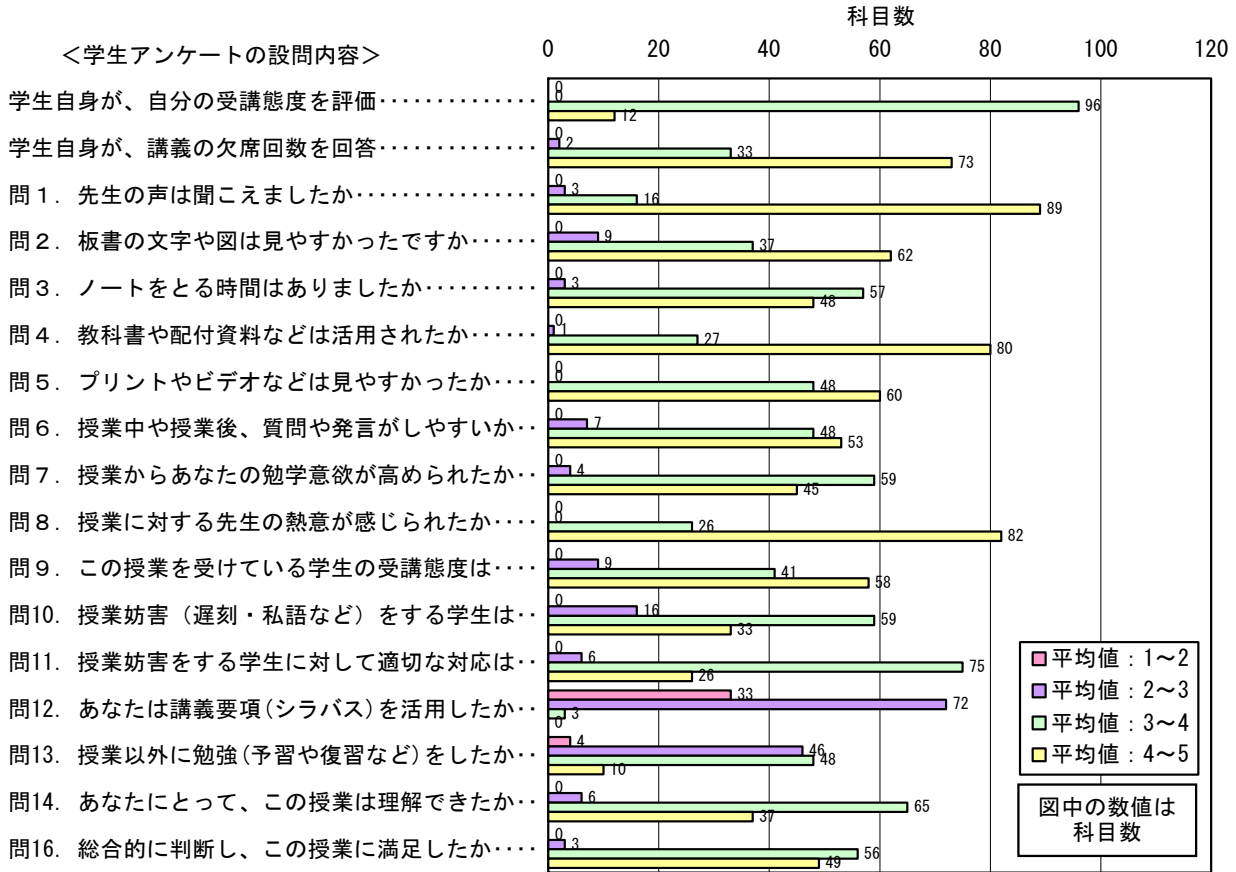


問15. この授業について、当てはまる項目（複数回答可）

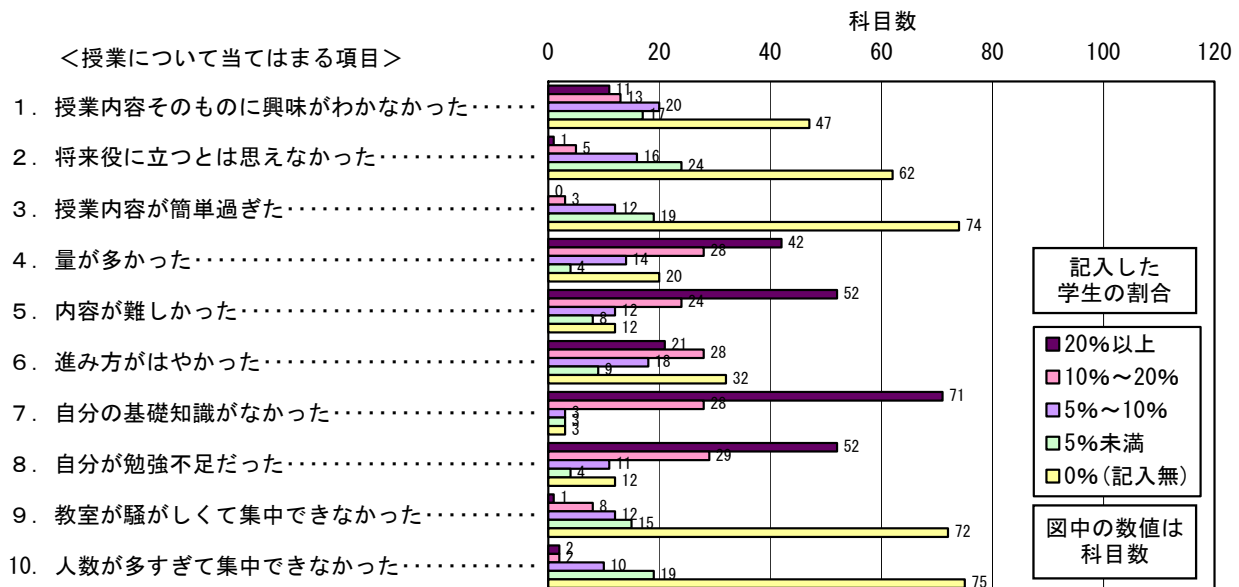


金沢学院短期大学 平成22年度前期 授業改善のための学生アンケート
 科目数の分布結果：短期大学の全科目数=108科目

「設問（問1～問16）」ごとの「平均値（1～5）」に対する科目数の分布



「授業について当てはまる項目」ごとの「記入した学生の割合」に対する科目数の分布
 参考：「記入した学生の割合」は、受講学生数に対する記入した学生の割合（%）



授業改善のための学生アンケート

マークはHB程度の鉛筆で○内を塗りつぶしてください。

良い例 ● 悪い例 ○

このアンケートは学生の皆さんが受講した授業科目を今後より一層充実させるため、実施するものです。成績評価とは全く関係ありません。率直かつ真剣にお答えください。

授業科目	教員氏名
------	------

科目番号 (たてに)									
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

I. あなたについて、お尋ねします。当てはまる箇所をマークしてください。

学 科	生活デザイン学科	ライフデザイン総合学科	食物栄養学科				
○	○	○	○				
学 年	1年	受講態度	非常に悪い	やや悪い	普通	まあまあよい	非常によい
	○		①	②	③	④	⑤
2年	その他	欠席回数	4回以上	3回	2回	1回	0回
○	○	①	②	③	④	⑤	

II. 授業について、お尋ねします。以下の各項目についてあなたはどのように思ったり、感じたりしましたか。各項目について当てはまる番号を1つ選び、マークしてください。

1	先生の声は聞こえましたか。	ほとんど聞こえなかった ①	あまり聞こえなかった ②	どちらともいえない ③	まあまあ聞こえた ④	よく聞こえた ⑤
2	板書の文字・図は見やすかったですか。	見にくい ①	少し見にくい ②	どちらともいえない ③	まあまあ見やすい ④	見やすい ⑤
3	ノートをとる時間はありましたか。	ほとんどない ①	あまりない ②	どちらともいえない ③	まあまああった ④	十分にあった ⑤
4	教科書・参考書・配付資料などは活用されましたか。	ほとんど活用されていない ①	あまり活用されていない ②	どちらともいえない ③	まあまあ活用されている ④	十分に活用されている ⑤
5	プリント・ビデオ教材・プロジェクター画面などは見やすかったですか。	見にくい ①	少し見にくい ②	どちらともいえない ③	まあまあ見やすい ④	見やすい ⑤
6	授業中や授業後、質問や発言がしやすかったですか。	思わない ①	あまり思わない ②	どちらともいえない ③	まあまあそう思う ④	そう思う ⑤
7	この授業から、あなたの勉学意欲を高められましたか。	高められなかった ①	あまり高められなかった ②	どちらともいえない ③	まあまあ高められた ④	高められた ⑤
8	授業に対する先生の熱意が感じられましたか。	感じられなかった ①	あまり感じられなかった ②	どちらともいえない ③	まあまあ感じられた ④	感じられた ⑤
9	この授業を受けている学生の受講態度はあなたから見てどうでしたか。	良くなかった ①	あまり良くなかった ②	どちらともいえない ③	まあまあ良かった ④	良かった ⑤
10	授業妨害(遅刻・私語・携帯操作・居眠りなど、授業以外のこと)をする学生はいましたか。	たくさんいた ①	少しいた ②	どちらともいえない ③	ほとんどいなかった ④	いなかった ⑤
11	10で①または②の場合、授業妨害をする学生に対して適切な対応はなされていきましたか。	適切な対応はされなかった ①	あまり適切に対応されなかった ②	どちらともいえない ③	まあまあ適切に対応されていた ④	適切に対応されていた ⑤
12	あなたは授業の「講義要項(シラバス)」を活用しましたか。	ほとんど活用しなかった ①	少し活用した ②	どちらともいえない ③	まあまあ活用した ④	大変よく活用した ⑤
13	あなたは、授業中以外の時間(休憩時間や帰宅後)に、この授業の勉強(予習・復習・課題など)をしましたか。	ほとんど勉強しなかった ①	あまり勉強しなかった ②	どちらともいえない ③	まあまあ勉強した ④	勉強した ⑤
14	あなたにとって、この授業は理解できましたか。	ほとんど理解できなかった ①	少ししか理解できなかった ②	どちらともいえない ③	まあまあ理解できた ④	大変よく理解できた ⑤
15	この授業について、次の項目のうち当てはまる番号をマークして下さい。(複数回答可)	① 授業内容そのものに興味がわかなかった。 ② 将来役に立つとは思えなかったため、興味がわかなかった。 ③ 授業内容が簡単過ぎた。 ④ 量が多かった。 ⑤ 内容が難しかった。 ⑥ 進み方がはやくかった。 ⑦ 自分の基礎知識がなかった。 ⑧ 自分が勉強不足だった。 ⑨ 教室が騒がしくて集中できなかった。 ⑩ 人数が多すぎて集中できなかった。				
16	総合的に判断してあなたはこの授業に満足していますか。	かなり不満足である ①	少し不満足である ②	どちらともいえない ③	まあまあ満足している ④	大変満足している ⑤
17		①	②	③	④	⑤
18		①	②	③	④	⑤
19		①	②	③	④	⑤
20		①	②	③	④	⑤

★この授業について意見があれば、裏面Iに、自由に記入してください。

金沢学院短期大学

資料2

第8回FD研修会

(第1回 金沢学院大学・金沢学院短期大学FD研修会)

参加者アンケート集計結果

参加者アンケート集計結果

設問

1. ご所属

1. 文学部 2. 経営情報学部 3. 美術文化学部 4. 基礎教育機構 5. 短期大学
6. 事務局 7. その他 ()

2. 高等教育機関におけるリメディアル教育について

(1) 本学でリメディアル教育が必要と思いますか？

1. はい 2. いいえ

(2) 上で「はい」とお答えになった方にうかがいます。本学でリメディアル教育を実施するにおいて、科目、担当者などその実施方法について、あるいは問題点について、お考えを自由にお書きください。

3. 「金沢学院大学 学生生活の質向上のためのアンケートⅡ集計結果報告」について

(1) 【学生の視点から見た“よかった”授業】について新たな知見を得られましたか？

1. はい 2. いいえ

(2) (1)で「はい」とお答えになった方にうかがいます。それはどのようなことでしょうか？具体的にお書き下さい。

(3) 【学生の視点から見た“よかった”授業】について報告された内容は日頃お感じになっているご自身の感覚と合っていらっしゃいましたか？

1. とても合っていた 2. やや合っていた 3. あまり合っていなかった
4. 全く合っていなかった

(4) (3)で「あまり合っていなかった」・「全く合っていなかった」とお答えになった方に伺います。それはどのような点ですか？具体的にお書き下さい。

(5) 【相談相手としての教員の位置づけ】について新たな知見を得られましたか？

1. はい 2. いいえ

(6) (5)で「はい」とお答えになった方に伺います。それはどのようなことでしょうか？具体的にお書き下さい。

(7) 【相談相手としての教員の位置づけ】について報告された内容は日頃お感じになっているご自身の感覚と合っていらっしゃいましたか？

1. とても合っていた 2. やや合っていた 3. あまり合っていなかった
4. 全く合っていなかった

(8) (7)で「あまり合っていなかった」・「全く合っていなかった」とお答えになった方に伺います。それはどのような点ですか？具体的にお書き下さい。

(9) その他、お気づきの点などご自由にお書き下さい。

4. 「ある提案」について

(1) この提案について、賛同、ご批判などご自由にご意見をお書きください。また、これまでに実践例があればお書き下さい。

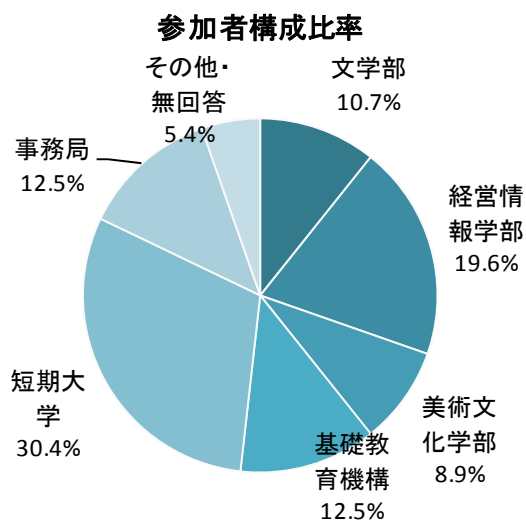
以下は金沢学院 kg グループウェアに掲載されている「FD 研修会（9/16/2010）アンケート結果」から関連する部分を引用する。

集計結果／参加者：81名、回答数：56、回収率：69.1%

1. 所属

単位：人

文学部	6
経営情報学部	11
美術文化学部	5
基礎教育機構	7
短期大学	17
事務局	7
その他・無回答	3
総計	56



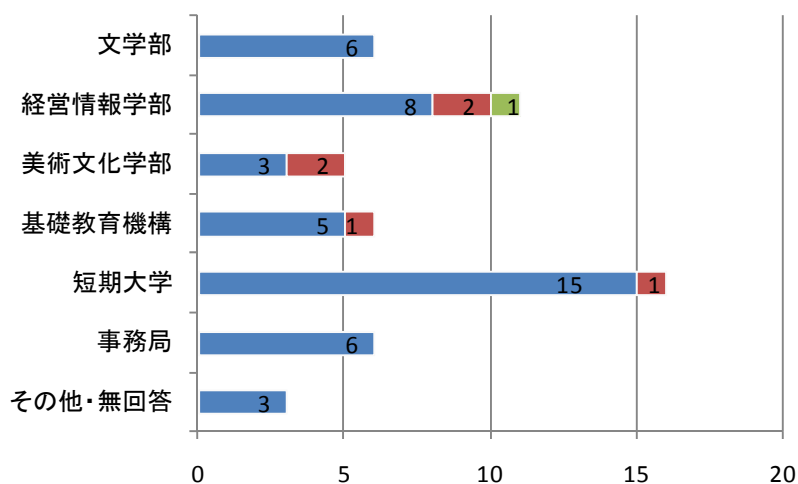
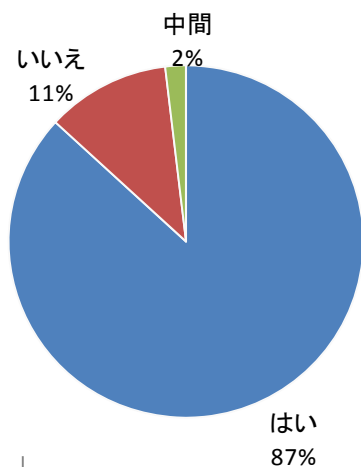
2. 高等教育機関におけるリメディアル教育について

(1) 本学でリメディアル教育が必要と思いますか？

単位：人

所属	はい	いいえ	中間
文学部	6		
経営情報学部	8	2	1
美術文化学部	3	2	
基礎教育機構	5	1	
短期大学	15	1	
事務局	6		
その他・無回答	3		
総計	46	6	1

リメディアル教育は必要と思うか (全体)



(2) 上で「はい」とお答えになった方にうかがいます。本学でリメディアル教育を実施するにおいて、科目、担当者などその実施方法について、あるいは問題点について、お考えを自由にお書きください。

- ・ 動機付をいかにするかが、大切だと思う。専門の力を養うのはもちろん、就職試験までを見据えていけば、必要なことが見えてくる。就職教養という科目で、基礎力を多角的な視点、科目で多くの教員の力を借りて実施する方法があると思う。何を必要と捉え、どんな科目を、どういう形態で実施するか、問題は少なくない。(文学部)
- ・ ①担当者(内部・外部も含め)のわりふり②形式、学部・学科ごとにカリキュラムにだいぶ違いがあり、その分時間数や回数に差が出る(そして担当者のわりふりにも影響する)③(単位化できないという前提で)参加を要請される(命じられる)学生の動機づけ(昨年度のFD研修会でも導入教育小委の報告で触れた)(文学部)
- ・ 英語担当者と問題:学生の実情をよく知る教員が望ましいが、担当コマ数の点で負担が大きいので追加の教員が欲しい。実施時間の問題:正規の時間に実施するのは難しいので、5限目や土曜日にする必要があるだろうが、ただでも勉強が嫌いな学生をそのような時間帯に勉強させることができるのか疑問である。(文学部)
- ・ 英語・数学など、基礎という形であると理想的ですね。基礎が終わってから、次のレベルに進めるとなお良さそうですが、やはり平行せざるを得ないのかな、とも思いました。(文学部)
- ・ 小論文(文学部)
- ・ 人文的な学問なので即効的な効果が得にくい、個人差が大きい。→学生の意欲をそぐことになるか。また、「社会的基礎力」をつける働きかけが必要であると思う。→「リメディアル」だけでなく、4年間で達成させるべきかもしれない。(文学部)
- ・ 入学前に必要である。入学前の春休み等(経営情報学部)
- ・ 先生方の現在の持ちコマ数を考えると、どんな科目を実施するにしても担当者が一番の問題だと思います。(経営情報学部)
- ・ 高校までに学ぶべき国語力、算数・数学力が不足している学生が多いので是非実施が必要だが、実施はアウトソーシングが現実的かと思う。問題点としてはいつ行うか?(時期、時間帯)があるかと思う。(経営情報学部)
- ・ リメディアル以前の問題(学生の学習意欲)の方が大きい(経営情報学部)
- ・ 学生が必要性感じさせる方法が重要だと思う。(経営情報学部)
- ・ 数学(経営情報学部)
- ・ 全学共通ではなく、各学部ごとの特性に合わせた科目等の選択を行い、実施した方がよいのではないか。(経営情報学部)
- ・ 講義をしている限りでは、いわゆる数学、英語の基礎力が必要という感じはありません。ノートを取り方、文章のまとめ方などの基本的スキルが足りないように感じます。〇〇基礎というより「学び方」という講義が必要ではないでしょうか。(経営情報学部)
- ・ 「英語」、「国語表現」、コンピュータ系の必修科目では能力別にクラス分けされていますが、一番下のクラスの学生は所属クラスででも授業についていくのが非常に厳しい状況だと思いますので、そのような学生に対しては必要であろうと考えられます。リメディアル教育科目を設置したところで学生をどのように来させるかという点から考えていくと実現はすごく難しいと思います(経営情報学部)

- ・入学後に、学力を引き上げる事。難しいと思われて。(美術文化学部)
- ・特に国語力について必要性を感じる(社会に出るにあたり)(美術文化学部)
- ・○学生に必要性を感じさせる(やる気を出させる)こと(したくない者がますます逃げる)○プロの指導者の確保(わからせる、かつ興味をもたせる、レベルにあった)指導(美術文化学部)
- ・補習型の科目を立ち上げるのではなく、既存の科目において、各授業時間の一定の割合を「リメディアル教育」に対応させる、いわゆるスパイラル型が現状に合う気がする。(基礎教育機構)
- ・しかし、出来る学生は受けなくてもいいようにすれば、いかがですか。(基礎教育機構)
- ・国語(文学部以外)(基礎教育機構)
- ・各教員の意識の向上が必要と思われます。(基礎教育機構)
- ・各学部・各学科毎に専門教育に必要と思われる科目を設定し、担当可能な教員が担当する。(基礎教育機構)
- ・全学的に、社会人として必要な数学・国語・英語などの最低限を教育する就職に関する教育とのタイアップはできないか。(基礎教育機構)
- ・学生の学力不足は痛感しているが、新たな科目として設けるのは事実上無理のように思えます。
「プレゼミ」の形を変えてリメディアル教育にしてみるのはいかがでしょうかと思います。(基礎教育機構)
- ・数学、国語、基礎をしっかりと身につけてほしいが、実施は授業中は無理なため、補講、昼休みなど短い時間を積み重ねてもよいと思います。(短期大学)
- ・算数、国語(短期大学)
- ・①人体の基礎(生理学、解剖学)②算数・数学③生物学④化学(短期大学)
- ・生物・化学・算数(短期大学)
- ・目的(要求水準)をはっきりさせて、内容を組み立てる。・高等学校法海を求めておく。(このような事をやり過ぎると高校生は敬遠する可能性もある。)
・総合力を高めるのは、総合力の高い指導者が必要・基礎的な部分は、本学教員でカバーし、講義を外部に任せる。
・(上の「基礎的な部分は、本学教員でカバーし」を囲んで)→これがやり切れないと解決は難しい。(短期大学)
- ・学科を問わず国語・算数・英語の能力向上が必要と思うが、担当教員の人数や時間的余裕が不十分であると考える。(短期大学)
- ・基礎(学力)の内容がどんなものか。(短期大学)
- ・基礎科目(国語、英語、数学)担当者→できれば学内で。(短期大学)
- ・多くの学生は就職のために大学に来ているので、多面的なさらなる就職支援が必要かと思えます。(短期大学)
- ・基礎教育機構という組織があるから 基礎教育機構が実施すべきことだと思う。(短期大学)
- ・新田先生のお話にもありましたが、リメディアル授業は1年次授業開講前に行われるのが理想的で授業と平行して行われるのは、浸透力が低いように思われます。(短期大学)
- ・現実問題として担当教員をどうするのか学生のレベルのボーダーについて課題が多いが何か計画的に実施することが望しい。(短期大学)
- ・1.科目の選定 2.担当者がいない場合の手当て 3.対象学生の選び方 4.組織的な運用をする必要がある(短期大学)
- ・数学(基礎的) ・国語(日本語文章力) ・化学(基礎的) ・生物(基礎的) 担当者
学科内先生方で分担すると過剰になる。(短期大学)
- ・科目:算数レベル、生物、化学、国語 担当者:本学科教員だけでは難しい(東高教員と

の連携は?) 実施方法: プレゼミ、キャリアプラなどの時間を充てて対応すると良いのは?(短期大学)

- ・英・数・国・社会も学部・学科に応じて検討 学内教員担当、但し、コマ数の負担増を避ける。(事務局)
- ・導入は賛成だが、下の目線でみないで、気長につきあってほしい・(すでに実施しているが) 入学前教育の充実 栄: 理数系 ラ: 基礎(負担にならない程度の) ・東高教員からの授業協力 ・「基礎英語」や「国語基礎」の授業の10~20分程度、もしくは前半で習熟度別 ・ライドはYES制度(廃止されたが)の導入もあり社会人教育基礎科目がある。YESはなくなっても、続けていけるとよいと思う ・食栄は、栄養士取得のために理数系の授業導入や補講等を行っているようです。賛成 ・ライドは学生数を増やすために英語を少なくしたが、基礎科目を入れてもよいと思う→質のよい学生をのぞむなら(事務局)
- ・例えば短大食物栄養学科における化学、生物。経営ビジネス学科における数学(算数かも)(事務局)
- ・対象者のガイドラインやその学生を受講させるためにどのように指導するか検討が必要だと思う。入学前にネット等をつかって学習出来る様になればよいのではないのでしょうか(事務局)
- ・単位化するか否か、できない学生をどう特定し、どう(強制して)受講させるか 文系のremedialは可能か(必要か)など(その他・無回答)
- ・いかに学生に納得して受けてもらうか(その他・無回答)

3. 「金沢学院大学 学生生活の質向上のためのアンケートⅡ集計結果報告」について

参照: 金沢学院 kg グループウェア>ネットフォルダ>大学教員>FD委員会>FD研修会(9/16/2010) アンケート結果

4. 「ある提案」について

- (1)この提案について、賛同、ご批判などご自由にご意見をお書きください。また、これまでに実践例があればお書き下さい。
- ・自分なりに実践することを考えている。(文学部)
 - ・橋本メソッドの取材をしたい(あるいはしてきてほしい)(文学部)
 - ・大学ユニバーサル化で学生が「観客」であるとするなら、教員は何らかの「芸」を求められているということになります。自分の担当科目の特性上、余り本来の授業とかけ離れたことはできないだろうとは思いますが、学生に考えたり、クラスメートと話をするという習慣をつけさせるためには、とてもおもしろい活動だと思いますし、ここまでできないまでも授業の中にこのような要素を取り込めればよいと思われました。(文学部)
 - ・水平思考の問題に興味を持ちました。ディスカッションのいい練習になると思いました。表現の授業(言語表現)の中で1~2時間、グループディスカッションを取り入れています。「金沢学院大」を外へPRするキャッチ・コピーを考えてほしい というもの。リーダーになるような学生は面白がります。全く参加しない者もいます。(文学部)
 - ・主旨は理解できる。(経営情報学部)
 - ・自分のできる範囲で何かやってみたいと思いました。(経営情報学部)
 - ・科目によっては、あまり関係ないことはできないと思うが大変によい試みだと思う。授業の中

でとあったがプレゼミで採用したい(経営情報学部)

- ・ユニバーサル化の認識は必要であり、現実的に対応すべきであろう。(経営情報学部)
- ・私も橋本メソッドには興味をもちました。ただ、多人数講義でやるまでの自信がなく、これから、いろいろ試みてみたいと思います。(経営情報学部)
- ・演習科目では既に実施しています。グループ研究、グループ発表、グループ討論など。橋本メソッドは、多人数の講義科目で行うことが想定されているようですが、非常に困難だと思います。(経営情報学部)
- ・プレゼミ等で<問題を立てる、作る>経験をさせて、その問題を解くように指導している。確立した手法としては、クリティカル思考法を取り上げてみたいと思う。(経営情報学部)
- ・水平思考の問題は大変参考になりました。(基礎教育機構)
- ・何ができるか考えてみたい。(基礎教育機構)
- ・私は反対です。この提案に比べれば、純粋なりメディア教育の方を選びます。専門のカリキュラムの中に私が教えたい科目が十分に入っていないので、プレゼンを利用して、知っておかねばならない基礎知識をしっかりと教えたいと思います。「問題発見」的授業は、今の日本人に欠けている「じっくり物考える能力」を涵養するのに役立つとは思えません。むしろ低俗化させるように思えます。(基礎教育機構)
- ・考えてみる価値のあるテーマがあれば、やってみるのもおもしろいかもしれません。(基礎教育機構)
- ・大変、勉強になりました。(短期大学)
- ・興味はありますが、授業中に行うのは難しそうだと思います。(短期大学)
- ・授業でいろんな形でとり入れる事(そのような観点を持つこと)は大切です。入れています。(短期大学)
- ・参考になりました。(短期大学)
- ・ご提案に賛成です。(短期大学)
- ・プレゼミの授業内容が講演を聞くタイプが多い。少人数にしてディスカッションの時間も何回か入れたらどうか？(私の時間内では科目外に時間をさくことがむづかしい)この提案は先生の質の向上にもなると思う。(短期大学)
- ・機会をみて試みたいと思います。(短期大学)
- ・授業の特色によって、実施が難しいものもあるが是非実施してみたい。私の授業は一部学生との対話形式で講義することがあるが、その時の方が、学生が楽しそうに見えるのは気のせいではないと思います。(短期大学)
- ・類似のことは少しはやってきた。学生を見るとそれ以前の深刻な問題が進行している。精神的に不安定 異様なぐらいの無気力(その他・無回答)

以上

【編集】 金沢学院短期大学 FD 委員会

【発行日】 2011 年 2 月 28 日